

海上航行安全祈願祭（北九州市・明石与次兵衛塔）

7 月 3 日、梅雨の蒸し暑さが残る中、関門橋の袂にある明石与次兵衛塔に行政機関をはじめ関係諸団体と関係各社から総勢 48 人が参列し、海上航行安全祈願祭が執り行われた。

海上航行安全祈願祭の開催にあたり、主催者を代表し浅野忠行九州関門地方支部長が「この慰霊塔は 1592 年に豊臣秀吉が乗船する船が関門海峡入口で座礁し、その責任をとり自刃した船奉行「明石与次兵衛」を慰霊する塔です。

豊前の領主となった「細川忠興」が与次兵衛の死を悼み、関門海峡を往来する船舶の安全を願い海峡の岩礁に建立され、度々の移転や再建を経て、地元の有志が 1955 年に海難守護神として公園内に再建したものです。

昨年の海難事故隻数は 1700 隻を超え、依然多くの海難事故が発生しています。海難事故の撲滅は船員の生命、船舶の安全を守る重要課題であり、関係団体と連携しながら、海難事故の撲滅および、船舶の航行安全を願い、恒久的な海の平和を希求する運動にまい進することを誓います」とあいさつした。

続いて参加者を代表し、北九州市門司区区長岩村恭代氏の代理で大浦太九馬氏、門司海上保安部部长稲田健二氏の代理で山口昌之氏から来賓あいさつがあり、和布刈神社宮司の御祈祷と、参列者の玉串奉奠を行い、最後に船舶の安全・港の発展を参列者全員で祈願した。

「海員だより」